

平成 28 年度 第 4 回地域医療支援病院に関する委員会

開催日時	平成 29 年 3 月 17 日(金) 13 時 30 分から 14 時 20 分まで	
開催場所	大垣市民病院 2 病棟 1 階 会議室	
議 題	前回開催時の課題に対する報告、定例報告及び紹介率向上への取組みについて	
出席委員 (敬称略)	委員長	大垣市医師会会長 山川 隆司
	副委員長	大垣歯科医師会会長 片野 雅文
	委員	大垣市医師会副会長 沼口 諭
	委員	大垣市医師会理事 近藤 潤一郎
	委員	大垣歯科医師会副会長 萩下 雅仁
	委員	大垣薬剤師会会長 松本 正平
	委員	大垣市教育長 山本 譲
	委員	大垣女子短大看護学科長 伊藤 恒子
	委員	西濃保健所長 稲葉 静代
	委員	弁護士 鈴木 一朗
公開区分	公開	
傍 聴 人	なし	
審議概要	<p>1. 報告事項</p> <p>1)前回開催時の課題に対する報告</p> <p>(前回開催時の課題:委員要望) 市民病院での退院前カンファレンスの結果、どこへ転院したのか、というような報告を確認したい。</p> <p>(事務局)転院、在宅及び施設など退院後の行先は現在集計中である。今年度分をまとめて次年度の委員会で報告させていただく。</p> <p>(委員)前回開催時に、市民病院で行われる在宅医療多職種研修協議会に対して市民病院の薬剤部の先生が出席されていなかったという話をしたが、院内で薬剤部の先生への連絡が無かつたため、参加されなかった。薬剤部の先生にもご案内をしていただけるよう再度お願いしたい。</p> <p>2)定例報告事項</p> <p>(1)よろず相談・地域連携課から、①紹介率・逆紹介率、②地域連携を介した診察・検査件数、③開放型病床利用状況、④救急統計、⑤地域の医療従事者に対する研修・講演会の開催状況、⑥地域連携クリニカルパス登録状況、⑦OMNet 利用状況について報告した。</p> <p>①紹介率……28 年 4 月～29 年 2 月:66.5%</p> <p>逆紹介率…28 年 4 月～29 年 2 月:125.6%</p> <p>②地域連携診察件数…28 年 4 月～29 年 2 月計:10,656 件</p> <p>地域連携検査件数…28 年 4 月～29 年 2 月計:1,185 件</p> <p>③開放型病床登録医数…29 年 2 月末:130 人(医科 104 人、歯科 26 人)、</p>	

	<p>利用率…28年4月～29年2月:17.0%</p> <p>④救急受診患者数…28年4月～29年2月計:37,996人(月平均3,454人)</p> <p>救急車利用件数…28年4月～29年2月計:9,456件(月平均860件)</p> <p>救急入院患者数…28年4月～29年2月計:2,579件(月平均234件)</p> <p>⑤地域医療従事者に対する研修…28年4月～29年2月開催数:53回、 参加人数計:6,090人(院外608人、院内5,482人)</p> <p>*病診連携カンファレンス、糖尿病コメディカル研修会、がん診療委員会、 在宅対策研修、地域連携研修、薬剤師連携研究会、西濃画像研究会 等 市民対象の講演会等…28年4月～29年2月開催数:9回、 参加人数計:295人(院外258人、院内37人)</p> <p>*市民公開講座、糖尿病公開講演会、成人気管支喘息教室、出前講座等</p> <p>⑥地域連携クリニカルパス登録状況…28年4月～29年2月登録総数1,107件 29年2月末時点におけるパス開始からの登録総数:6,277件</p> <p>⑦OMNet利用状況…29年2月末時点 利用者数:104人 患者同意者総数:12,373人</p> <p>(2)委員から、上記の報告について次のとおり意見・質問があった。</p> <p>(委員)救急医療の数字を見ると当院の救急はとても忙しいことが良く分かるが、救急受診をされた患者さんから、接遇面についてのご意見等を保険所に頂くことがある。このような激務の中、大変だとは思うが、患者さんに対する対応を今一度ご確認の上、救急医療にあたっていただきたい。</p> <p>(委員)救急までの必要は無いが翌日の朝に診察してほしい、と紹介した際、予約枠がいっぱいということで、FAX送付していただかなくてよいと言われることがある。そうすると患者さんからは「市民病院へ症状等をFAXしてくれないのか。」「紹介状を持って行けばその外来で、すごく待たされるのかすぐ診てくれるのか。」というのを尋ねられるので、予約を取れなくてもFAXは流して、市民病院で症状を把握していく場合によっては早く診てもらうと。そういう工夫をお願いしたい。</p> <p>(事務局)今は外来患者さんも減っているので、予約枠の見直しというのを早速行いたいが、枠を超えた予約依頼は今後も有ると思われるので、こちらで受け取って、「こういう方が受診にみえる。」というように情報を流すようにする。枠の中に入れるように何とか努力するが、入れない場合も情報を受け取って、診療科に前もって内容を流していくという形に、すぐに改善したい。そうすれば先生方から紹介された患者さんも納得されると思う。</p> <p>(委員)予約の枠いっぱいで断られるというケースは、結構有るのか。</p> <p>(事務局)依頼の多い科というのは決まっているので、そういう科を中心として、融通性を持ってもらうように指導して、地域の先生方にご迷惑をおかけしないようにしたい。</p> <p>(事務局)救急医は普通の外来が開いている午前は比較的余裕が有る。外来でどの科にかかるべきか分からぬ患者さんがみえたら救急で診るので、救急をもう少し利用いただいても対応できる、というように考えている。</p>
--	--

	<p>(委員)先ほども話が有ったが、救急の厳しい現状を市民の方にも理解していただくために現状をお伝えするような、広報的なことをされると良いと思う。</p> <p>(委員)OMNetの地域区分に「その他」があるが、対象地域を2市4郡から拡げていくという方針か。</p> <p>(事務局)積極的な勧誘は2市4郡だけできさせていただくが、利用を希望される先生は喜んで引き受ける。ただし、最大アクセス本数が40本という限界が有るので、急拡大するということはない。</p> <p>(委員)アクセス本数が40本は同時に40の医療機関が繋げられるということか。</p> <p>(事務局)40台のPCが同時にアクセス可能。まだ少し余裕がある。</p>
	<p>3)紹介率向上への取り組みについて</p> <p>(1)よろず相談・地域連携課から、紹介率向上への取り組み状況について次のとおり報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 4月から2月までの患者さんからの電話予約件数の、全体予約の件数からの割合は5パーセント前後で推移をしている。大垣市の患者さんからの予約が圧倒的に多い。診療科別では歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児科の順であった。 ② かかりつけ医紹介センター相談件数の今年度4月から2月までは前年同期の260件に対して202件と減少した。 <p>(2)委員から、上記の報告について次のとおり意見・質問があった。</p> <p>(委員)かかりつけ医紹介の相談数が減ってきたということは、溜まっていた患者さんが紹介されたということか。</p> <p>(事務局)そのとおりで、特に循環器の方がすごく紹介に出されて、大分残りの患者さんが少なくなったというふうに理解している。</p> <p>2. 検討事項等</p> <p>(委員)在宅医療多職種研修の中で、市民病院に通院されているある患者さんのケアマネジャーから薬が複雑になっているので会議をしてほしいと依頼を受けて、薬剤師が会議をしようとした。市民病院の先生から指示が無いと会議ができないので市民病院に連絡したところ、地域のかかりつけ医がいないとできない、ということであった。患者さんが有る程度安定されれば地域のかかりつけ医の方に行くが、行かない患者さんへの薬局の在宅への介入の方法というのをご検討いただきたい。</p> <p>(事務局)訪問看護の患者さんの場合に関しては対応したが、今回の話は確かに対応していないので検討させていただきたい。</p> <p>(委員)市民を対象にした講演会は、回数的な目標はあるか。</p> <p>(事務局)以前、放射線技術部の方で毎月やっていたが、今はその関係が無くなつたので散発的な形になり、半減した。</p> <p>(委員)救急外来は、特別初診料の問題も有つて本来の姿になってきた。逆に救急車</p>

	<p>の数が増えているので大変な状況になっている。事前指示書のことも含め、救急外来の医師は地域包括ケアシステムの中で大事な役目であると認識されていると感じる。「地域の中の救急外来」という概念を市民の皆さんにも持っていただけれどと思うので、「どのように利用すれば良いのか」「なぜこういうことが必要なのか」など、そこで行き違いがあるとトラブルが出てきてしまうので、市民病院の中の救急外来ではなくて、この地域の救急外来という意義を、宣伝だけではなくて理解してもらうのが大事。</p> <p>多職種連携の会は、医師会が代表して案内をしているが、市の取組み項目の一つとして医師会が共同している事業なので、どういう位置付けでやっている事業なのか、或いは院内のスタッフの方々にもなぜこれをやっているのか、ということをご理解いただきたい。</p> <p>(事務局)救急に関して地域のオンリーワンだという認識を持っている。ぜひ上手に利用いただきたい。現在は本来の2次3次を中心とした医療になってきていて研修医の意識も高いので、お手伝いができることが有れば、したいと考えている。</p> <p>(事務局)オンリーワンだと、地域の全ての患者さんがみえ、軽傷の方も重症の方もみえるということで、軽傷の方については忙しさもあって先ほどのご指摘のようになることもあります。40万人の医療圏で当直医が6人か7人なので、そこら辺りが難しい。</p> <p>(事務局)ウォークインの患者さんは減ってきて、以前は連休には人が溢れていたが、現在はそうでもない。特別初診料の影響かも知れないが、救急であるという地道な努力をしてきてこうなったのではないか。これから、ご指摘のように細かいデータを出していきたい。</p> <p>(委員)急患センターは正月休みの時は200人近くの人が来て、医師会としてもあそこでかなり頑張っている。小児夜間救急に関しては土日は医師会から医師を出して、できるだけ市民病院の救急を守らないといけないと思っている。事前指示書は市民病院から先生も参加して、市役所など多職種プロジェクトチームで2年ぐらい練って作ったものなので、この地域に行き渡った時には勉強会を開催させていただきたい。</p> <p>(委員)救急の患者数がとても多いので、最初驚いた。40万人の医療圏で救急を診るという覚悟で先生方はおられるが、救急車の適正利用とか、そういうことは行政も一緒になってやっていかないといけない。</p> <p>(事務局)救急車の数が年間1万を超える病院というのは全国に4つか5つ位しかないので、大変であるが自負している部分も有る。4、5年前は救急医が1人しかいない時代が有ったが、現在は4人いる。研修医や見学に来ている学生の間でも非常に評判が良いので、当直も全部できるような体制にしていきたい。救急医師が24時間居るという体制を目指して救急医は最低でも7人、できれば10人にしたいが、すぐにできるということではない。今は救急医師が若く、とてもモチベーションが高い状態にあるのでもう少し待てば24時間誰かが居るという体制ができ、先ほどの説明不足ということも補えるのではないか。</p>
次回開催	平成29年度第1回は平成29年6月16日(金)に開催予定とする。